

植生指標についての整理案(回復過程の評価)

これまでの知床岬での調査結果を元に整理した。

段階	項目	対象経過年	指標	モニタリング項目	対象植生別の指標となる種				
					代償植生草原	ササ草原	高茎草本草原	風衝草原	広葉樹林
1	草原現存量の増加	1~3年	イネ科草本の現存量増加	現存量	ナガハグサ等		(植生高)		広葉樹下枝
			ササ類の現存量増加	高さ・植被率		クマイザサ			
			不嗜好性植物の衰退(反応早)		アメリカオニアザミ	アメリカオニアザミ			
2	嗜好性植物の回復	4~7年	嗜好性植物の増加(反応早)	個体数・被覆面積・高さ	クサフジ エゾイラクサ	クサフジ アキカラマツ	クサフジ・アキタブキ オオヨモギ アキカラマツ エゾノシシウド シレトコトリカブト	ガンコウラン チシマセンブリ	エンレイソウ類・サラシナ ショウマ・チシマアザミの総 被度 稚樹密度の増加
			不嗜好性植物の衰退(反応早)	個体数・被覆面積			エゾオオバコ トウゲブキ		嗜好性種の萌芽による回復
3	希少種等の回復	8~10年	嗜好性植物の増加(反応遅)	開花個体数・被度%			エゾノシシウド オオヨモギ エゾカンゾウ	チシマセンブリ シャジクソウ	エンレイソウ類・サラシナ ショウマ・チシマアザミの開 花個体数
			不嗜好性植物の衰退(反応遅)	開花個体数・被度%	ハンゴンソウ?	ハンゴンソウ?	カラフトイチゴツナギ トウゲブキ		ミミコウモリ・シラネワラビ の減少?
4	植生としての回復	11年~	種組成・現存量の安定	多様性・総現存量・被度					安定的な更新
			過去の目標植生の回復	基本構成種の合計被度					

